

指導の形態	美術「カラーテープを使って壁飾りを作ろう」	障がい種	特別支援学級
教材等	～意欲的に表現活動に取り組むために～	等	知的障がい

指導の概要やよさ

- ・表現活動に消極的で自分から活動しようとする事の少ない生徒が、楽しく意欲的に取り組めるように授業を構成している。
- ・様々な発達段階の生徒に合った表現活動が展開でき、出来上がりの作品も見栄えよく達成感がもてるような材料、表現活動の工夫をしている。

児童生徒の様子

中学校1年生男子

- ダウン症
- 自分から描いたり、作ったりすることはほとんどなく、教師と一緒に声をかけたり、支援をしたりしながら作品を作り上げることが多い。
- 美術の時間、設定した活動に取りかかっても、数分すると「終わり」と言ってやめてしまうことが多い。
- 手先を使った細かい活動は苦手。

目標

- おにぎりやバナナなど作りたいものに見立てながら、カラーテープをまるめたり、折ったりする。
- 作品を最後まで（箱に全部作品が入るまで）、完成させる。

注：「カラーテープ」
表裏、色の違った集めの紙テープ。折ったり、まるめたりするとそのまま形が変化する。

支援のポイント

<作り方>

- ①「カクン」と折るだけでできるよ。



- ②できた作品を小箱に入れる。



※「花」などテーマを設定して作成しても楽しい。

- ③作品を入れた小箱を大きな箱に入れていく。



○導入の工夫

- ・出来上がりまでの手順を具体的に見せる。
- ・主となる活動をする時には、「できそうだな」と思える活動をやって見せ

わくわく！やってみたい！

○材料の工夫

細かい手先の活動が苦手な実態から、少しの力でも変化を楽しめるカラーテープを使うことにする。教師の支援がなくても形を色々に変化させることができる。

できそう！できた！

○活動の仕組みの工夫

対象生徒の実態から、活動に見通しを持って取り組めるように、3つの活動

- ①作りたいものを決める
 - ②作る
 - ③作品を箱に入れる
- を繰り返す仕組みにする。

わかりやすい！

○作品の工夫

何をどれだけすればよいかを視覚的にわかりやすい。

<出来上がり作品>



見栄えがする！終わりがわかる達成感。

※箱は空き箱に黒い紙を張る。
※カラーテープは画材屋にある。